

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER

第6号
Jul 2010

その夢は、きっと世界を変えていく。



Contents

- | | |
|---|---------------------------------------|
| P.2 一語一会「将来に大きな夢を持ちましょう」 | P.11 平成22年度竜の子奨学生「将来の夢をご紹介します」 |
| P.3 平成21年度下半期活動報告
奨学生採用について | P.12 竜の子近況報告 |
| P.4 第11回交流会レポート
(鎌倉旅行・屋形船) | P.14 寄付者の紹介 |
| P.6 第12回交流会レポート
(贈呈式・卒業式・祝賀会) | P.15 編集後記 |
| | P.16 Topics |

財団法人 秋元国際奨学財団

「将来に大きな夢を持ちましょう」

印象に残った竜の子奨学生京都交流会

今まで多くの留学生交流会に参加しましたが、昨年7月に京都に行った「竜の子奨学生」の交流会ほど印象に残った交流会はありません。留学生の皆さんは東京から新幹線で京都に向かいましたが、私は住まいの関係で途中の新横浜から合流しました。私の席は6名で向かい合った座席の中央に用意されていました。

交流会に参加したとき、私がもっとも重視することは、留学生の皆さんの名前を覚えることです。めったにお会いする機会のない留学生の名前を覚えるためには、学生一人ひとりの特徴を知ることが大切です。財団からいただいた写真入の冊子を片手に、機会があるたびに学生諸君に話しかけました。

初日は立命館大学や金閣寺など訪問

京都駅に着くと、迎えのバスで立命館大学に行き、大きな部屋に通され、立命館大学副学長、立命館アジア太平洋大学学長はじめ大学幹部のお話の後、ご一緒に昼食を取りました。午後、立命館大学平和ミュージアムを見学した後、迎えのバスで金閣寺に行きました。晴天で池の中に浮かぶ美しい金閣寺を背景にして、多くの留学生と一緒に写真を撮りました。その後、石庭で有名な竜安寺を訪問し、最後にバスで嵐山に行きました。ゆったりと流れる桂川の川岸から二人ずつ人力車に乗り、情緒ある嵐山一帯を見学しました。人力車で京都見学したのは私も初めての体験でした。

嵐山の見学の後、バスでホテルに帰りました。ホテルでの夕食会では、留学生の個性豊かな自己紹介があり、楽しく拝聴しながら、学生の特徴をつかみ、名前を覚えしました。その夜、留学生たちと八坂神社周辺と四条通りを散策しました。

翌日は京都大学、銀閣寺、清水寺を訪問

翌日は、京都大学に行き、昼食では大学食堂で総長カレーと京大開発オリジナルのビールを楽しみました。その後、京大時計台にある歴史展示室を見学し、次にバスで銀閣寺に行きました。小高い裏山から見る銀閣寺の姿は格別でした。その後、綺麗な水が流れる小川に添った「哲学の道」を留学生と現在の研究内容や母国のことなど語りながら歩きました。京都旅行の最後は清水寺でした。

迎えのバスが清水寺の駐車場に来て、京都駅に直行しました。駅でこの交流会の準備をしてくださった京都大学や立命館大学の留学生の皆さんに全員で感謝の気持ちを伝えて、新幹線に乗りました。

楽しかった京都旅行を思い出しながら、私がある雑誌に書き上げたばかりの脳科学についての解説文の最初の数頁を10名ほどの留学生にメールでお送りしました。そしたら、全員から面白かったので、後半も送ってほしいという嬉しいメールをいただきました。この解説文の要約を次に述べます。

社会で活躍するために必要な脳細胞を育てよう

世の中には博識でありながら社会でリーダーになれない方がいるかと思うと、あまり勉強は得意でないのに社会で活躍している方々がいいます。その違いは、若いときから額のすぐ後ろにある前頭前野と呼ばれている大脳皮質の鍛え方にあります。

人間の前頭前野は大脳皮質の30%を占めています。人間に近いチンパンジーや猿は10%、犬は7%、猫は4%程度の前頭前野があります。人間の前頭前野がどのような働きをしているか、長い間わからなかったのですが、最近の脳機能計測装置の進歩でほぼ解明されました。

その結果、前頭前野は脳の司令塔であり、人間にとって最も大切な脳細胞で、次のような働きをしていることがわかりました。

- ① 仕事に対して意欲が増し、創造性や実行力が生じます。
- ② 思慮深くなり、判断力が増します。
- ③ 他人に対して思いやりをもつ、愛情深い人間に育ちます。
- ④ 感情的にならず、自己コントロールできる人に育ちます。
- ⑤ 計画的な行動ができ、社会で活躍できる人に育ちます。

前頭前野の発達した人は、経営者や指導者に必要な判断力、実行力があり、若いときにはうつ病など精神的な病気に、年を取っても認知症になりにくいこともわかっています。

脳の細胞数が増えるのは20歳ころまで

脳細胞が育つのは、幼児期から大学時代までです。特に脳細胞が勢いよく育つのは、中学・高校時代で1日200万個の割合で育ちます。この時期をどのように生活するかによって、いろいろな特徴をもった人間に育ちます。

脳の細胞数が増加するのは20歳頃までと聞いて、不思議に思われるかも知れません。しかし、人間の身長もほぼその年齢までしか伸びません。人間は遺伝子の動きでそのようにできています。

人間の脳細胞数は20歳頃に約140億個になり、しばらくは一定ですが、40歳を過ぎたころから減少しはじめ、60歳頃には1日に平均30万個ずつ死滅します。しかし、脳細胞に限らず、人体の細胞は使っている間は死滅しないのです。

将来に大きな希望と夢をもって生きましょう

前頭前野は出産直後から発育しますが、解剖学的な所見によると、3歳頃まで急激に、4～10歳頃まで緩やかに、11～18歳頃まで再び急激に発育します。そして、22歳を過ぎると前頭前野の細胞数は増加しません。しかし、留学生の皆さんの年代のときに、将来に大きな夢と希望をもって、目標に向かってコツコツ努力すると、前頭前野の一つひとつの細胞が大きくなり、脳細胞の活動が活発になることが最近の研究でわかりました。留学生の皆さん、将来に明るい大きな夢をもって、脳や身体を鍛え、幸せな人生を歩みましょう。



選考委員 小谷 誠

1964年東京電機大学大学院工学研究科修了。工学博士。
東京電機大学工学部電子工学科助手、講師、助教授を経て1977年に教授。
工学部第二部長、同第一部長を経て1998年より4年間同大学学長。
その間、1975年より2年間マサチューセッツ工科大学（MIT）客員研究員。
現在、学校法人東京電機大学理事、同大学名誉教授、北里大学医学部客員教授。
学会活動として、日本生体医工学学会副会長、大会長を経て現在名誉会員。
日本生体磁気学会会長を経て現在名誉会員。日本コンピュータ外科学会名誉会員。
元生体磁気国際会議会長、元ライフサポート学会会長。趣味はゴルフ。

写真は、銀閣寺前にて「竜の子奨学生」の一部の方と筆者（後列左より4人目）

「一語一会について」

竜の子奨学生にとって、財団関係者からの励ましの言葉は、大変貴重なものです。そして、竜の子奨学生には、その言葉は一生に一度の出会いであると心得て、そこから多くのことを学んでほしいという願いを込めて、このコーナーを「一語一会」と名付けました。



平成21年度下半期活動報告

●11月4日	第11回交流会を開催 茶道・座禅体験、屋形船にて懇親会
●1月8日	平成22年度竜の子奨学生の応募書類を発送
●2月26日	平成22年度竜の子奨学生応募締め切り
●3月11日	平成22年度竜の子奨学生 選考委員会を開催 (於：京王プラザホテル)
●3月27日	第8回理事会・第7回評議委員会を開催（於：京王プラザホテル） (1) 平成22年度事業計画および収支予算について (2) 奨学金支給規定の変更について (3) 平成22年度基本財産の運用について (4) 株主権の議決権行使について (5) 役員退職慰労金規定の制定について (6) 役員退職慰労金支給について (7) 理事の選任について 第12回交流会 第3回卒業式・第4回贈呈及び祝賀会

平成22年度（第4期）竜の子奨学生 6名が決定

平成22年3月11日に、第4回選考委員会が開催され、応募者の中から、4大学6名の留学生在が竜の子奨学生として選出されました。

さらに、第2期竜の子奨学生のうち6名について、学業成績向上、交流会への参加状況、財団への貢献度などが特に顕著であることが評価されて、奨学金支給期間を1年間延長することが承認され、合計で12名の留学生在が第4期竜の子奨学生として選出されました。

この結果、当財団に在籍する留学生在は、昨年までの奨学生と合わせると、4カ国、30名となりました

第11回交流会レポート

平成21年11月14日（土）、竜の子奨学生の第11回交流会が開催されました。46名の奨学生と、4名の財団関係者と16名の寄付者の皆さまはいわば鎌倉五山の第二位に列する円覚寺において、茶道および座禅を体験しました。茶道および座禅を通じて、日本の伝統や文化に対する理解を深めることができました。

朝9：30、東京駅八重洲口から鎌倉研修旅行をスタートしました。66名という大人数での団体行動なので六つのグループに分かれて行動することになりました。約1時間半電車を乗り、ようやくJR北鎌倉駅に着きました。北鎌倉駅に到着してそのまま会席料理「鉢の木」へ移動し、そこで昼食会が行われました。とても豪華な会席料理でした。初めて会席料理を食べたので、会席料理について好奇心がとても高まりました。皆さまと会席料理のお話をしながら、お食事を進めました。日本の伝統的な食文化の雰囲気味わえました。



桑原宗典師範に濃茶の指導を受ける秋元理事長



会席料理の昼食

昼食が終わってからその日の目的地の臨済宗大本山円覚寺に向かって移動しました。「鉢の木」の昼食の場所は円覚寺と近いので、歩いて10分もかからずに、円覚寺に到着しました。今日のテーマはお呈茶と座禅の二つもあるので、円覚寺に着いてから、すぐ財団常務理事の廣田さんの指示に従い、早速お呈茶の場所に移動しました。お呈茶は、円覚寺の

大広間をお借りして開催されました。お呈茶の先生は裏千家師範・桑原宗典先生です。

桑原先生に茶道の歴史から茶道の精神「^{わけいせいじやく}和敬清寂」までを詳しく教えていただきました。さらに、その中で、私が一番印象に残っているのは「一期一会」という言葉です。皆さんも覚えているでしょう。「一期一会」とは、一生に一度だけの出会いを大切にしろという意味です。初めて「一期一会」という言葉を聞いたとき、私はこの「一期一会」の意味がよく理解できませんでした。私は、茶事は何度も同じ人と会う機会があるので、「一期一会」ではないと思いました。そのあと先生に、毎度の茶事では亭主とお客は同じでも、その茶事を行うときの天気やお茶の道具や露地、庭の景色などは全く同じというわけではないから、毎度の茶事に対してはいつも「一期一会」の気持ちを大切にしろのだという話をいただきました。私は茶事のときだけではなく、普段の生活で人と接するときに、2度とその人と会えないというぐらいの覚悟でその人を大切にしていきたいと思います。



初心者である奨学生に優しく丁寧に指導をいただきました



みんなで、裏千家流の挨拶をして、お開きとなりました

最後に、桑原先生に理事長をはじめ、奨学生一人一人直接お茶の飲み方を教えていただきました。

次に行われたのは座禅会です。円覚寺教学部長の朝比奈恵温和尚が座禅会の指導師を務めていただきました。まず、朝比奈和尚から座禅の仕方を教えていただきました。座禅のときに座り方、手や足の組み方などがはっきり決まるそうです。それらの中で初心者にとって一番難しいのは足の組み方です。本当の足の組み方は右足を左足のももに乗せ、左足を右足のももに乗せる結跏趺坐^{けっかふざ}という姿勢ですが、皆さんはほとんど座禅の初心者なので、優しい朝比奈和尚は半跏趺坐という組み方にしました。それは、片方の足だけをもう一方のももに乗せる方法です。次に、本当の座禅会が始まりました。始めるにあたり、寄付者の中川様に、警策をいただく体験をしていただきました。



寄付者の中川様に警策を体験していただきました

警策が背中にあたった音が、座禅の本堂全体に響きました(初心者なのに、全然手加減してくれないと感じました)。それから、私はすべての筋肉を使って一生懸命静座しました。眠りそうに見えると、朝比奈和尚に警策をいただく可能性があるからです。しかし、朝比奈さんに自ら警策をお願いする人は意外と多かったです。私もお願いしたかったのですが、毎回警策が背中に当たった音を聞くだけで、勇気はすぐなくなりました。座禅会の終わる頃に、私の正面に座っていた財団事務局の加藤さんが警策をお願いしました。加藤さんは女性なのに、とても勇気があります。私は男だから、負けないぞと思い、警策をお願いしました。ああ。。やっぱり痛かったです。しかし、音から想像するほど痛くはなかったです。そして、何か体全体はスーッと感じました。今思い出してもいい体験をしたと思います。そのあと、朝比奈和尚が座禅終了の合図をして座禅会が終わりました。

座禅会が終わって品川に移動して、船宿の屋形船で懇親会が開催されました。屋形船で日本伝統的な料理、天ぶらをいただきました。美味しかったです。今日の行事はお食事も含めて、すべて伝統的な日本文化です。お食事の間は定番カラオケで盛り上がりました。



揚げたての熱々天ぶらがとても美味しかったです



熱唱するソルランさん



評議員 鳥飼様、塩井様と屋形船上にて、お台場をバックに

夜10半頃、解散の時間となり、東京付近に住んでいる奨学生たちは二次会に行き、家が遠い人は早く帰りました。とても充実した、有意義な一日でした。

第12回交流会レポート

● 第4回奨学金贈呈式 ●

平成22年2月27日（土）、京王プラザホテルにて第4回贈呈式が開催されました。第4期竜の子奨学生として選ばれた6名の留学生たちを迎え、理事長や選考委員長から温かいお祝いの言葉をいただきました。また、奨学生代表として李双春さんがスピーチをし、感謝の気持ちと熱い夢を伝えました。

式辞 秋元竜弥理事長

この度、竜の子奨学生として採用された留学生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんは今、奨学金を得られ、喜びと期待へ夢は大きく広がっているものと思いますが、当財団の特徴でもある交流会についてのお話を少しさせていただきたいと思います。当財団ではこれまで柔道体験、野球観戦、相撲観戦、富士登山など、さまざまな日本を学び、体験するというような交流会を開催して参りました。富士登山では苦しみと喜びを皆で分かち合うなどの経験を通じて、当財団の良いところを学んでもらったものではないかと思います。このように交流会を通じて学業以外の様々なことを学んでもらえるということが当財団の良いところではないかなと自負をしております。また、交流会を通じて得た友情を深め、将来もずっと交流を続けていくことが国と国を越えた国際理解に繋がることだと考えております。世界平和の実現に向けて皆さんがそれぞれの分野で努力し活躍することを期待して言葉を結びたいと思います。本日は皆さん、おめでとうございます。

非常に熱心に努力して勉強されて、優れた成績を挙げている方々でありまして、本財団として、財団の目的趣旨にかなう、立派な奨学生が得られたものと確信しております。竜の子奨学生になられた方々、心からおめでとうございます。



選考結果を報告する有山選考委員長

奨学生代表挨拶 東京電機大学 李 双春（中国）

秋元理事長をはじめ、秋元国際奨学財団の方々並びに寄附頂いた皆様に、私達留学生を力強く支援していただいたことを心からお礼を申し上げます。

奨学金の支給が決まった夜、実家の母に電話で報告しました。「秋元国際奨学財団から竜の子奨学金を頂きましたよ」と報告すると、母からは「本当によかったね、感謝しないといけないよ、その秋元国際奨学財団はなぜお金をだしてまで、あなたのような留学生を援助するか、その目的をよく理解して、それに応えることこそ最大の感謝ですよ。」と言われ、その夜はいろいろ考えてしまい、なかなか眠ることが出来ませんでした。外国の留学生が自分の国に留学しにやってきたとして、私達中国人が果たして援助することができるのでしょうか。多分考えもしなかったでしょう。今回私達が奨学



式辞を述べる秋元理事長

選考結果報告 有山正孝選考委員長

選考委員会では、予め定めた選考基準に基づいて、申請書類により皆さんの学業成績、経済状態、更には留学の動機、そういったようなものを鑑みまして慎重に選考を行いました。その結果、第4期の竜の子奨学生として選ばれたのがお手元の奨学生名簿にあります、12名の方々でございます。皆さんいずれも明確な留学目的をもち、困難な経済状態の中で



新入生を代表してスピーチする李さん

金をもらえたのは私達がラッキーだったからではなく、秋元理事長並びにご寄付頂いた方々がいらっしゃったからです。

私のもう一つの夢を聞いて下さい。それは、将来私も中国で「秋元国際奨学財団」のような財団を作ることです。様々な国から来る多くの人々を応援していきたいと思います。も

しかしたら、名前も同じ「秋元国際奨学財団」にするかもしれません。もちろんその前に秋元理事長に許可を頂きます。その際は宜しくお願いします。本当にありがとうございます。

● 第3回卒業式 ●

平成22年3月27日（土）、竜の子奨学生24名が財団を卒業する日を迎えました。厳粛な雰囲気の中で、卒業生一人一人、また先輩達を見送る後輩たちは寂しい気持ちと共に温かい思い出で胸がいっぱいになりました。

式辞 秋元竜弥理事長

本日卒業をされる24名の竜の子奨学生の皆さん、卒業本当におめでとうございます。今、振り返りますと、いろいろな交流会を通じて、様々な思い出が皆さんとは残っております。今、財団の理事長としての言葉をかけておりますが、もう一つの役割として皆さんの兄貴分としての交流という二つの役割があったのではないかと思います。理事長という立場では、皆さんへ「学業頑張ってね」と、「必ず夢を達成してね」という立場と、兄貴分としては人と人との繋がり、心のふれあい交流会を通じて皆の中に深く刻まれたもの、言葉に換えられないものがあると思います。この卒業をもって最後ではございません。皆さんを卒業後も温かく見守っていきたく思っております。皆さんも竜の子奨学生としてのご縁を大事にしていってください。皆さんへの大きな期待を込めて私からの送る言葉とさせていただきます。

在学生代表挨拶 立命館大学 ガンバートル エンフジャルガル（モンゴル）

皆さん改めましてこんにちは。わずか1年の短い付き合いでしたが、皆様へのお祝いの気持ちと共にここでお別れという気持ちで少し悲しいですが、ここで卒業されても友達としての気持ちは変わらないでしょうね。私たちは竜の子奨学生として、大学も違い、国籍も違いますが、交流会を通じて日本の文化を知って勉強してきました。その中で、私の中で一番記憶に残っているのは11月に行われた座禅と茶道の体

験でした。異文化を理解したいと思っている私たち50人がゆったりとした時間を過ごしながら日本の文化とふれあってきました。そこで私は茶道の一期一会という新しい意味を知りました。それは二度と会わないことより、今あって、この今を大切にすることだと思います。

卒業生代表挨拶 一橋大学 王 小凡（中国）

私は財団の第一期生として採用され、今日まで三年が経ちました。奨学金のおかげで、アルバイトなどに時間を費やすことなく、勉学に専念でき、充実した留学生活を送ることができました。その中で、一番印象に残っているのは箱根旅行での出来事です。宴会で秋元理事長と隣席になり、理事長に大学院に合格したことを報告したところ、ご自分のことのように喜んで下さり、周囲の静けさも気にせず大きな拍手をしてくださいました。そのことが今でも忘れられず、常に思い出して、励まされています。このように、財団からは経済的な援助だけでなく、お金では計れないものをたくさん得ることができました。秋元理事長がいつもおっしゃるように苦難は人生のつきものであり、私たち竜の子奨学生はこれからも苦難と挫折に立ち向かい、自分の夢に向けて頑張り続けます。

今日私たち24名の竜の子奨学生は財団を卒業し、それぞれの道を歩んでいきますが、決してこれで終わりではありません。これからも、築きあげた絆を守っていき、秋元国際奨学財団の交流の輪を広げていきます。



奨学生を代表してスピーチするガンバートルさん



卒業生を代表してスピーチする王さん

(担当：平成21年度竜の子奨学生 立教大学 張 允楨
平成22年度竜の子奨学生 東京電機大学 李 双春)

● 祝 賀 会 ●

贈呈式と卒業式の後、楽しい祝賀会が行われました。先ず、ご来賓より祝辞をいただき、そのあと、卒業生代表からスピーチをし、さらに奨学生達が日本舞踊、二重唱、合唱などを披露して、会場がすごく盛り上がりました。後半は、廣田常務理事からのご挨拶で財団の設立の経緯などをお話いただき、非常に感動的な場面で祝賀会が円満に終わりました。

理事長挨拶

当財団は設立から今日まで25大学、アジアを中心とする11ヶ国93名の留学生を迎えることが出来ました。そして本日を含め63名の卒業生を送ることになりました。

ある理事から人育ては100年懸ると言われた事があります。そして、ひとつの教育事業の節目としては20年といわれております。

そんな中で私達はまだ3年目のヨチヨチ歩きの財団でありますから、今後とも皆様のご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

奨学生の皆様は、多くの人に支えられているということを頭において、これからの困難に立ち向かって下さい。

祝辞 理事 小川 進吾 様

卒業して社会に出る奨学生の方々はこれから、次の目標に向かって大きく胸を膨らましていると思います。でも、学位記を持っているからといって、みなさんが将来順風満帆というふうにはいかないだろうと思います。



社会に出ますと、そこから第一歩踏み出すことですから、皆さんは可能性を持った能力のある人達なので「存在理由」、「原点」を忘れず、今後精進してもらいたいと思います。

祝辞と乾杯のご発声

臨済宗大本山円覚寺 教学部長 朝比奈 恵温 様

仏教の教えの中で大事なことはご縁で、自分達だけで生きているのではなく、いろいろなご縁を得て生かされると思います。秋元理事長は今まで受けたご縁を、今度は皆様にお返ししたい思いで、この奨学財団をお作りになったと考えます。皆さんはその得た縁を大事にして、



これから教育、教養など様々なことを次の世代の方に有意義にお役たていただきたいとおもいます。

卒業生代表挨拶

平成19年度奨学生代表 京都大学 曹 洋 (中国)

3年前にご縁に恵まれ、私は竜の子奨学生の一人として、秋元国際奨学財団の大家族に入りました。秋元理事長を始めとして多くの財団関係者、寄付者の方々からいつも温かく見守っていただきました。そして、今



までの財団の交流会を通じて、普段の留学生活で体験できない貴重なチャンスもいただきました。日本の文化や精神を学び、仲間と助け合いながら視野を広げ、自分を成長させました。短い3年間でしたが、多彩な人生を送れることができ、心から感謝しております。更に、この3年間を通じて、私は社会的なマナーや考え方を学んで行くうちに自分も厳しい人になりつつあります。でも、私は本当に心がとても優しい人ですから、くれぐれも怖がらないでください。(笑)

平成20年度奨学生代表 立命館アジア太平洋大学 チョウドリー イツテアク アミン (バングラデシュ)

私は竜の子奨学生に選ばれ、財団の家族の一員となり、財団の方々にとっても親切に接していただき、その優しさに触れることができたことがとても心に残っております。また、私たちは富士登山、大相撲観戦、東京



マラソン、京都旅行という貴重な経験をさせて頂きましたけれども、その中で、日本の社会、文化・歴史、日本の様々の美しさを見ることができました。さらには、その中で、奨学生同士が互いに仲良くなり、人的ネットワークも広げることができました。すばらしい秋元財団の奨学生に選ばれたことは

私たちの誇りであり、これからの自信となっていきます。これからは日本の為、母国の為に役に立てよう精進してまいりたいと思っております。

平成21年度奨学生代表 東京外国語大学 ^{チェ} ^{ムンヒョン} 崔 文賢 (韓国)

昨日私は修士課程の卒業式を迎えました。3年前に日本に来て何でも自分一人でやっていくことが心細くて、とても難しかったですけれども、竜の子奨学生になって、お兄さんみたいな秋元理事長をはじめとする財団の方々から支えていただいているのを感じて、とても心強く思いました。また、竜の子奨学生の交流会で、様々な分野を専攻している多くの奨学生たちと親密に話し合うことも本当に嬉しかったです。日本での3年間いろいろ試練があったけども、精神的にはすごく強くなったと思います。韓国に帰って、心の中に皆さんが支えてくださったことを忘れずに、これからは自分が他の人を支えていく立場に立って行きたいと思っています。



閉会の挨拶 評議員 塩井 勝 様

数年前母国で大きな夢を抱いて日本という国に海を渡ってやってきたのかと思います。ただ大きな夢を抱いただけでは夢は実現できないということが現実ではないかと思っています。生活費を稼ぐ為のバイトを一生懸命にやると、バイトのために日本に来たのか一生懸命勉強する為に日本に来たのかが分からなくなった時期があったと思います。ただ、秋元理事長の支援でそういった経済的な問題もクリアでき、夢の実現に一步步近づいたのではないのでしょうか。奨学生の仲間も一生の財産として守っていただいて、今後も財団の活動に協力していただき、日本に残る方も、母国に帰る方も日本との架け橋になっていただければと思います。



ご挨拶 常務理事 廣田 知朗 様

3年間の常務理事をしてまいりましたが、財団を離れる際、最後に竜の子奨学生の皆さんに二つお話をさせていただきます。

一つ目は、皆さんにこの財団の設立の経緯を知ってほしいということです。4年半前に秋元理事長と一緒にカンボジアの学校へ行って、あの教室に何人はいれるだろうというような小さな教室であるにも関わらず、ひとつの椅子に子供達が二人、三人座って、目を輝かせて授業を受けているのを見て、こうした子供達に何かをすることが自分達にできる国際貢献じゃないかという意志を固めて、財団法人を作ろうと決意しました。そうしたきっかけで、財団が作られたのですから、いずれ皆さんは将来国に戻った時には、是非、自分の国の子供達を支援する何らかの貢献をしていただきたいと思います。

もう一つ伝えたいことは、いつも皆さんが秋元国際奨学財団のご恩とご縁に対して感謝していますという言葉聞きますけども、その言葉だけで終わるのではなく、自分の行動も変えるということが大事だと思いますので、それをみなさんに望みたいと思っております。

(廣田常務理事は財団を離れることになりました。)



奨学生全員により廣田常務理事へ寄せ書きを贈呈

秋元理事長から卒業生へのメッセージ

卒業生の皆さま改めて本当におめでとうござい
ます！ みなさんが今、向かっている道は人生のす
べてではないということをみなさんに伝えたいと
思います。心に残る一番大事なことは皆さんの心
の中に刻んで卒業してくれたものだと思ってお
ります。これからも、いろいろな苦難がありますけれ
ど、今は人生においての一つの通過点(小さなこ
と)であることをどこかの心の中の隅におきなが
ら今の進路を頑張ってください。本当に皆さんと
の思い出が心に深く残っております！ またちょく
ちょく遊びに来てくださいね！

12回交流会祝賀会の司会者



東海大学の王慧傑さんと東京大学の宋昌錫さんのプロみたいな面白い司会 会場が時には爆笑！

合唱「翼をください」・「Auld Lang Song」



卒業生の全員で、皆さんに感謝の意を込め、
旅たちの歌を真剣に合唱！

日本舞踊「さくらさくら」



日本舞踊を美しく踊っている竜の子奨学生5人の姿は
財団の関係者、奨学生の皆さんを感動させた！

卒業生から秋元理事長へのプレゼント



卒業生の全員により秋元理事長へ感謝の気持ちを込め、
折り鶴と花束を贈呈 ～ありがとうございました！

二重唱「卒業写真・勝利の歌bersorak-sorai」



東海大学のユニアル・プラスワタさんと筑波大学の
楊 高郎さんのプロのような歌声に皆が驚いた！

実は、3月27日、朝11時から新木場公園で楽しいバーベキュー
が行われました。奨学生54名とご来賓が12班に分かれて、お肉
と野菜などを焼きながら、自分で味も付けて、お腹いっぱい～
～（^^）になるまで食べました。その後、シートの上で、ひな
たぽっこをしながら、お互いに悩み、喜びなど語り合いました。

肉焼けてるよ～



BBQ後、秋元理事長を囲んで

（担当：平成21年度竜の子奨学生 東京大学 孫 敏華）

平成22年度竜の子奨学生 将来への夢をご紹介します

第4回奨学金贈呈式・第3回卒業式・祝賀会を通じて、他の奨学生とも交流を深めることができたと同時に、先輩方の熱意に感化されたことでやる気を更に増やすことができました。ここで私たち第4期の竜の子奨学生の夢をご紹介しますと思います。全員の顔を覚えていただければ幸いです。



イ デイユン
李 大英
(韓国 ソウル市)
北海道大学
水産学部2年

私は海のものなら何でも好きです。地球の約70%は海ですが、海の中は見えず、広すぎて、人間が簡単には調査できなく、まだまだわからないところがたくさんあります。しかし、将来我々の食糧からはじめ、様々な資源を得るところは海しかないと言われていいます。それで、私は海の資源を研究し、私たちの生活を豊かにしていきたいです。



ベ ナンジュ
裴 蘭珠
(韓国 慶尚南道巨済市)
京都大学
環境マネジメント専攻
修士課程2年

私は、多くの人々が平等に幸せな生活できる社会に貢献したいという夢を持っています。これは、一見難しそうにも見えませんが、実は自分自身が幸せであることが一番大事であると、私は思っています。私が幸せであれば、私の周りの人々も幸せになり、それが重なれば結局社会の皆が幸せになるのではないのでしょうか。



カ ゲンエツ
何 玄悦
(中国 上海市)
京都大学
経済学部
経済学科3年

経済学の勉強をしています。子供の時とは大分変わったもので、とにかく有名になりたいと思うのは変わっていません。現在の経済システムやその仕組みに「戦い」を挑み、より良い理論と制度を構築したいと考えております。志は高く、腰は低く、目指すのはノーベルです。



リ ケイホウ
李 慧芳
(中国 遼寧省)
東京工業大学
科学環境学専攻
博士後期課程2年

発展した技術を学び、自分の視野を広げ、卒業後には、中国に戻り、大学で教育と研究に従事したいと思っています。日本で学んだ技術、知識を中国の化学、環境問題に興味がある多くの学生に伝え、自分なりの方法で日中間の新たな技術と人材の交流に協力できると幸いです。



オウ エツライ
王 悦来
(中国 河北省)
東京工業大学
工学部
開発システム学科4年

「些末電力の蓄積」に関する研究をやっています。将来の夢は機械エンジニアになることです、日本で学んだ知識を活かし、何か社会に貢献できる製品を設計できるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



リ ソウシュン
李 双春
(中国 遼寧省)
東京電機大学
工学部
環境化学科4年

現在中国の環境汚染は日々肌で強く感じていました。いつも思うのは、今環境問題に取り込まなければ、将来の中国は取り返せなくなるかもしれません。是非日本で、環境技術を勉強すると共に、日本の環境問題に対する考え方等についてしっかり学ぶことにより、将来中国に帰って、中国の環境問題の解決に一役たつと思っています。

竜の子近況報告



私とお母さん

平成21年度竜の子奨学生

康 アルム (韓国・全北郡山市)

京都大学大学院 理学研究科
修士課程卒業

「社会人になりました!」

みなさん、ご無沙汰しております。卒業してからもうすぐ2ヶ月になります。私は現在、気象情報通信株式会社に入社し、日々新しいことを学び、挑戦しています。東京に引っ越すことになり、新しい環境での生活に不安もありましたが、今は関西弁もすっかり忘れてしまいました(笑)。私は気象情報・データの配信、運用管理を担当しています。自分の専攻を活かせる仕事でもあり楽しくやっていますが、その一方で働くことの厳しさも感じています。入社後の研修では「10年・20年後の自分を想像し、常に目標を持つこと」が大事だと学びました。今は技術士や気象予報士などの資格をとる目標を持っています。みなさんも自分の目標達成に向けて充実した毎日を送ってください。



ゴルバチョフ元大統領と会談

平成21年度竜の子奨学生

ヌルメメット 依克山 (中国・烏魯木済市)

明治大学 政治経済学部経済学科4年

「大学院進学に向けて」

私は現在大学院進学を目指し、9月にあります大学院入試に向けて準備をしているところです。英語であったり、自分の専門分野であったり、とにかく資料や本と睨めっこしている時間がますます増えてきました。とは言っても、泣いても笑ってもこれが大学最後の1年ですから、身の回りのチャンスをできる限り逃さないようにしています。英語劇に挑戦したり、リビアのカダフィー大佐やゴルバチョフ元大統領との対話に参加したりと、勉強以外の部分でも極力色々な体験をするようにしています。これらの体験もきっと私の糧となることは間違いありませんし、オンとオフの切り替えにも役立っています。近いうちまたいい報告ができるよう頑張りたいと思います。



初ドライブ〜

平成21年度竜の子奨学生

羅 宏勝 (中国)

慶応義塾大学卒業

「自動車免許を取りました!」

今年4月23日江東区運転免許試験場で免許試験を一回で合格し、免許を手に入れました!!

翌日早速レンタカーで初ドライブに行ってきましたが、初心者マークを付け忘れたり、一回車線変更したときに後ろのドラークと衝突しそうになったり、結局6時間で30キロぐらいしか走れませんでした。ゴールデンウィークの時になると、運転技術も大分良くなったので、少し遠い山中湖に行ってきました。景色がとても綺麗で、良い気分転換となりました。しかし、やはり遠出は初めてなので緊張しました。

皆さんもぜひ勉強の合間にいろいろチャレンジしてみてください。



舞台劇への参加 (左から3番目が本人)

平成20年度竜の子奨学生

余 筱秋 (台湾・桃園県)

東京外国語大学総合国際文化研究科・
博士後期課程4年

「日本古典による舞台劇」

今年はオーバードクターとしてまだ同じ大学で在籍しております。論文執筆と学会投稿に一人での机上作業が多いですが、できるだけ何か手伝える活動や交流などに参加してみました。

一つは今年1月に「語り」として出た外語大の舞台劇——「語りと劇による『源氏物語』」の公演でしたが、7月中旬頃にまた再演することになります。今回は古文の「語り」とスタッフの両方として参加させていただきます。自分の専門分野以外の世界ですが日本の古典文学に触れ合え、そして演劇と舞台の奥深い世界に少し何うことができました。古典のせりふを丸暗記するのは大変ですが頑張ります。そして何よりもたくさんの人と協力し合い、ひとつの舞台を築くことが楽しくて良き触発になると思います。

皆さんも健勝に過ごせますようにいつも心から願っております。



Happy Graduation (右から2人目が本人)

平成20年度竜の子奨学生

**チョウドリー イツテアク
アミン** (バングラデシュ・ガジプル市)

立命館アジア太平洋大学卒業

「人生をしっかり計画し、楽しく生きよう！」

僕は今年の春からオムロン株式会社に入社し、事業企画部のセールス＆マーケティング部門に配属され、社会人として働くことになりました。今は東京にはまだ慣れていなく、モーニングラッシュと戦う毎日ですが、社会人としての生活そして東京での生活は刺激に溢れ、チャレンジする価値が十分あると思っています。

就職活動中の皆さんもぜひ焦らずに、自信を持ってください。竜の子奨学生の誰しもが優秀で明るい未来を持てると信じています。BRICs、VISTA、NEXT-11などの新興市場の出現はついに日本企業をアメリカやヨーロッパ市場から切り離し、僕達のような日本留学中アジア留学生にとっては最高のチャンスとも言えます。ぜひ日本そして母国のために力を発揮してください。

最後に、先輩として残したい一言は「人生をしっかり計画し、楽しく生きよう」とのことです。計画なしの人生では、チャンスもすべて逃げてしまいます。人に頼らず、しっかり自分自身に問い詰め、自分に合った目標を持ってください。そして、失敗に恐れず、「Next!」と自分を励ますのです。それが成功への道だと思います。



現場実習中の私

平成19年度竜の子奨学生

王 小凡 (中国・瀋陽市)

一橋大学卒業

「社会人一年生」

私は今年の4月に住友重機械工業株式会社に就職しました。パワーTRANSMISSION・コントロール事業部の海外業務部に配属され、今は名古屋製造所で研修しています。現場での実習もあるため、筋肉痛になることもよくありますが、モノづくりの楽しさを実感している毎日です。文系出身のため、製品に関する知識が全くなく、研修を通して将来の業務に必要な知識をできるだけ多く吸収するように頑張っています。社会人になっても失敗を怖がらずにいろいろなことを挑戦続けたいと思います。

前回の交流会で財団のOB会をようやく発足しました。これからはさまざまな活動をしていきますので、財団関係者・卒業生の皆さまのご協力をよろしく申し上げます。



エジプトの旅

平成21年度竜の子奨学生

黄 艶 (中国・瀋陽市)

日本大学卒業

「旅に出よう！」

日立化成グループ会社に就職し、4月から社会人生活がスタートしました。まだ、研修中で日々新しいことを学んでいます。卒業旅行で13日間エジプトとトルコに行ってきました。今回は旅行についてお話ししたいと思います。エジプトでは念願のピラミッドを見ることができました。ピラミッドは昔教科書でしか見ることができず、ぜひ一度本物を見たいと思いました。本物はとても大きく迫力があり、その偉大さに感動してしまいました。トルコは料理がとても美味しく、観光地では日本語を流暢に話せる人が多くいました。洞窟ホテルに泊まり、トロイの古代遺跡など満喫な日々でした。忙しい生活を過ごしている中、自分にご褒美で旅に出るのも一つ気分転換になると思います。皆さんの旅経験もぜひ聞かせてください。



IEVC2010@Nice, France

平成21年度竜の子奨学生

イーダヤット ザイドン (中国・庫倫市)

東京電機大学卒業

「人生の春」

今年の春は雨の日が多く、天気異常が話題になった。日照時間が短かったため、農産物まで影響を受けた。その影響は今でも続いている。

今までの人生を振り返ってみると、人生にも四季と異常天気があるように感じる。熱い夏があれば、寒い冬もあった。冬の寒さに耐えられなく、風邪を引いてしまい、春だけ望む夜が続く中、ある日目を覚めたら、もう春が来ていた。花が咲き、鳥が歌っている風景を見て新しいパワーをもらい、夢に向かってまた出発したことが何回もあった。夢と努力があれば、就職氷河期でも理想の仕事を見つかると思う。それを証明した自分にいつも言い返す：「人生の春が来たぞ。よし、頑張ろう。明るい未来が待っているから！」

寄付者の紹介

財団は、様々な立場の方々から、ご支援をいただいておりますが、特に寄付者の皆様からのご支援は、財団にとって心強い力となっています。前号に引き続き、普段なかなか交流の機会が少ない寄付者の皆様に、竜の子奨学生に知ってもらおうための企画です。今号では、加藤照美様と小林勤様のお二人に、お話を伺いました。



かとう てるみ
加藤 照美 様

株式会社メイブルリビングサービス
代表取締役

質問 財団にご寄付を頂く事になったきっかけを教えてください

私自身、学生時代は貧しく、学費を支払う為のアルバイトに追われていました。そのような経験から、同じように大変な思いをしている奨学生の皆さんの役に立てればと思いました。

また、個人的にも苦勞している学生の支援をしたいと常々考えていたのですが、何も出来ずにいたところ、秋元理事長が財団を設立したので、微力ながら財団の活動に協力したいと思いました。

質問 交流会にご参加頂いた感想をお聞かせ下さい

交流会において、奨学生の皆さんと接して、まず始めに感じた事は、皆さん日本の同世代の学生と比較して、とてもしっかりとしているという事でした。

また、自らの意志で留学しているということ自体が、とても立派な事だと思いました。

質問 竜の子奨学生に今後どのような事を期待したいですか

将来、皆さんそれぞれの母国と日本との友好の架け橋となってもらえると良いなと思います。

質問 最後に、竜の子奨学生へのメッセージを一言

自分の目標を実現して、母国の発展に寄与するような人になるべく、これからも頑張ってください。



こばやし つとむ
小林 勤 様

キーホーム株式会社
代表取締役

質問 財団にご寄付を頂く事になったきっかけを教えてください

財団関連者の皆様から財団の存在とその存在意義を聞かされ共感した為です。

質問 交流会（卒業式・贈呈式）にご参加いただいたご感想をお聞かせください

久しぶりに純粋な人達と触れ合い自分自身が浄化されていく感じがしました。

質問 竜の子奨学生に今後どのような事を期待したいですか

学生時代は、日本の良いところをとことん勉強して下さい。卒業されてそれぞれの国に帰ったら、日本で学んだことを母国の発展のために使ってください。

そして、志を高く掲げそれぞれの国でなくてはならない大きい存在になってください。

質問 最後に、竜の子奨学生へのメッセージを一言

一生懸命やれば必ずできる

一生懸命やれば必ず楽しい

一生懸命やれば必ず誰かが助けてくれる

（担当：平成20年度竜の子奨学生 東京大学 劉 知凡）

ご寄付いただいた皆さまへ

ご寄付を頂いた皆様のご恩とご縁に対して心から感謝を申し上げます。皆様の温かい援助があったので、竜の子奨学生達は苦難の前で挫折せず、自分の夢を膨ませ続け、毎日元気を出しながら、以前よりもっと自分の勉強と研究に集中し、良い成績を出すことができました。これから、竜の子奨学生達は大学を卒業して、社会の様々な分野で活躍しながら、日本でご寄付を頂いた皆様と一緒にした貴重な体験を活かし、将来的に母国に戻っても、日本とのアカデミックコミュニケーションの架け橋になるために骨を惜しまず頑張っていくことが、皆様からのご期待に応えることではないかと思っております。

（東京大学 孫 敏華）

編集後記

委員長 東京大学 孫 敏華

- 私達は「竜の子奨学生」会報第6号の編集のメンバーとして、過去半年間の活動をまとめて、より良い会報を皆様に読んでいただくために、みんなが一丸になって頑張りました。編集期間、編集委員以外の奨学生方々のご協力も頂いたので、会報作成が無事に終わることができたと思います。みなさん、ご協力本当にありがとうございます！
- 私は主に、第12回交流会の祝賀会コーナーを担当させていただき、祝賀会の際、非常に感動を受ける場面、言葉などを振り返りながら、励まされて、これからどんな苦難に遭っても、自分の夢を諦めず、頑張っていきたいと決心しました。
-
-

委員 東京電機大学 李 双春

- 私は竜の子奨学生としての1年目で、会誌の第6号の編集委員を任せられ、「第4回贈呈式」と「新奨学生紹介」の担当をさせていただきました。
- 編集の過程で何度も贈呈式の様子を記録したビデオを見ていましたら、その時の事を思い出し、熱い思いで胸が一杯になりました。また、他の編集委員のみなさんと毎回の編集会議を経て、交流することでチームワークの重要性を実感しました。今回の事で貴重な経験と仲間ができたことは、とてもうれしいことです。編集委員の皆様と原稿作成に協力していただいた新入生の皆様、本当にありがとうございました。
-
-

副委員長 電気通信大学 林 熙龍

- 会報「竜の子奨学生」第6号の編集を担当させていただきました。ありがとうございます。
- 編集委員会を通じ、再び奨学生の皆さんとのコミュニケーションができてとてもうれしかったです。そして皆さんのおかげで、会報第6号が無事に出来上がりました。
- 今回の編集で、私は「第11回交流会レポート」の部分を担当しました。大学の課題に追われる中、編集委員の仕事も行い、毎日忙しくも充実した生活を送ってきました。また、今回の編集は私にとって日本語の作文の練習にもなりまして、会報編集のことも勉強できて貴重な経験になったと思います。ここで、指導して下さったプロの方、協力してくださった事務局の方々に、心より感謝申し上げます。
- 編集後の皆さんとの食事でも楽しかったです。高級なイタリア料理とフランス料理をいただきながら、盛り上がりました。編集後のストレス解消は100%です。皆さんも機会があれば是非、編集委員の仕事に挑戦してみてください。

委員 立教大学 チャン ユンジュン 張 允禎

- 最初、編集員の依頼を頂いた時にはとても嬉しい思いでした。学校のいろんなことが山積していたにも関わらず、財団のために何かしたいという気持ちが強かったので大丈夫かな...と心配しながら参加させていただきました。会議に遅刻したり、原稿が遅れたりしながら、たくさんの迷惑をかけましたがみんなの温かい支えで何とか編集後記まで書くことができました。
- 会報の記事を書きながらもう一度交流会を振り返ることで、心が温かい気持ちで溢れました。改めて竜の子の奨学生の心強さを感じました。
- これからも楽しい思い出、温かい思い出をたくさん創っていきましょう〜！

委員 明治大学大学院 シュウ シシ 周 思思

- 今回は機会に恵まれ、第6号の会報の編集に携わることができ、「竜の子近況報告」の部分を担当しました。
- やはり一番の感動はみんなと協力し合って一つの仕事を作り上げることの楽しさと満足感です。それは日々学校での勉強では得られないものであり、自分にとってとても良い刺激となりました。
- 特に今回率いてくれた委員長の孫さんに感謝したいです。卒業生の皆さんと連絡を取る作業が難航していた時に、孫さんが一人一人に声をかけてくださったのです。おかげで最終的に円満に完成させることができました。
- 本当にかけがえのない良い経験でした。

委員 東京大学 リョウ チボン 劉 知凡

- どうも、今や財団一の古株、東京大学の劉知凡です。この度は助け人として再び編集委員会に参加させて頂きました。
- 途中から乱入で入ったので、みんなに迷惑を掛けないように冷や冷やしながら雑用と「寄付者紹介」をやらせていただきました。
- 当初自分が参加したのはまだ第4号で、今回はもう第6号になります。創刊号からみんなの意見で新しい項目がどんどん出来て、内容がとても豊富になりました。
- 財団の皆様やほかの奨学生と仲良くなれるので、首都圏在住の奨学生はぜひ一度参加してみてください〜
-



第2回編集会議の様子



編集会議後、打ち上げの席にて

当財団のホームページをリニューアルいたしました



財団法人秋元国際奨学財団のホームページがリニューアルしました。

動画で見る活動紹介や会誌のダウンロードが可能ですので、是非ともアクセスしてみてください。

英語と中国語のサイトも併設されています。

- ・財団概要
- ・寄付者のご紹介
- ・活動報告
- ・動画で見る活動紹介
- ・会誌のダウンロード

ホームページの URL

<http://www.tatsunoko.jp/>

特別公益増進法人の認可を受けました

財団法人秋元国際奨学財団は、平成 22 年 6 月 1 日、文部科学省より「特定公益増進法人」の認可を受けました。

当財団は平成 19 年に「私費留学生として来日した者のうち志操堅実、学力優秀でありながら、経済的理由により学業の継続が困難な者に対して奨学援助を行い、もって、諸外国との国際友好親善及び人材の育成に寄与することを目的として設立されました。

「特定公益増進法人」とは、寄付に対して所得税法・法人税法の税制上の優遇措置が得られる法人のことで、この認可によって当財団にご寄付された個人や法人の皆様は所得税法や法人税法上の優遇を受けることができるようになりました。

これから広く皆様方にご寄付を募り、この財団を維持し継続していく予定です。今後とも皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



Akimoto Tatsunoko
International Scholarship Foundation

財団法人 秋元国際奨学財団
<http://www.tatsunoko.jp>